

～陸上競技を支えるプロフェッショナルを徹底紹介！～

陸上の大会はたくさんの「縁の下の力持ち」によって支えられています。今回は主にマラソン大会で来日した外国人選手の会見やインタビューで通訳をされている竹澤哲さんに話を聞きました。

文/M高史

陸上競技ナビ

▲外国人選手をサポートするのが通訳の役割
©フオード・キンモト



No.14

通訳



竹澤 哲さん

◎たけざわ さとし/大学卒業後、ポルトガル、スペインに8年間に渡り滞在。コインブラ大学、バルセロナ大学にてポルトガル語、スペイン語を学ぶ。帰国後、1993年より日本陸連通訳として、スーパー陸上、福岡国際マラソン、東京マラソンなどを担当。WOWOWやその他スポーツイベントでの通訳や翻訳を行っている。

通訳の役割と大切な「選手との距離感」

陸上の大会で選手の通訳を務めて約30年になるという竹澤哲さん。ポルトガルでコーディネーターのお仕事をしていたことから、ポルトガル語やスペイン語の通訳としてキャリアをスタートしました。

現在は、マラソン大会等で集まった通訳の人たちの担当振り分け、大会事務局と各通訳の間に入って調整するまとめ役を担っています。

実際に、陸上の通訳では仕事内容はどんなものでしょうか。

例えばマラソンの場合、選手が来日するのは大会の約1週間前から。そこから仕事が始まります。

「まずは来日してからのお手伝いです。初来日の選手もいますので、練習や食事、来日中の生活で困らないように日本のインフォメーションを行います。日本の場合、助かるのはファミリーレストランでの食事です。写真付きのメニューなので、外国人

選手も困りません」

また、来日してからの練習場所への案内なども通訳のお仕事。「例えば東京マラソンの場合は、練習会場に移動するためのマイクロバスが用意されるので、選手にそういった情報を伝えます。」

選手と接するにあたって気をつけているのは「距離感」だそうです。

「基本的には通訳控え室にいて、『何か用事や困ったことがあったら来てね』と伝えます。心掛けているのはあまり密着し過ぎないこと。例えば、競技に必要な買い物にはついていきますが、その他のプライベートな買い物・行動に対しては案内だけを行います」

競技に必要なことか、プライベートなのかを線引きして、絶妙な距離感を保つことを竹澤さんは大事にしています。いろいろと尋ねてくる選手もいれば、全然連絡をし

てこない選手もいるとか。

「選手がまったく訪ねて来ないと逆に不安になる時もあります(笑)。そういう選手もいるので、あまりにも通訳控え室に来ない場合は『どうしてるの?』とたまに声をかけることもあります」

大会前日から当日の通訳の動き

レース前日(または前々日)の記者会見では有力選手が登場。通訳の出番です。

また、前日にナンバーカード(アスリートビブス)を選手に配るのも通訳のお仕事。さらに、スペシャルドリンクを入れるボトルの用意までしているそうです。「給水の中身は選手が準備しますが、ドリンクを持ってきてほしい当日の時刻を事前に伝えます。スペシャルドリンクの受付は外国人招待選手が泊まっているホテル内で行うので、まずは持ってくるのを待つ。それが

レース当日の最初の仕事です」。東京マラソンの場合は、レースが朝9時スタートと早いので、スペシャルドリンクは6時には集めるそうです。

また、体調不良の場合やマッサージ等の対応も行います。

「体調が優れない場合は医者に診てもらいますが、ドーピング違反にならないように、薬を細かく確認する必要があります。ですから、大会事務局に確認しながら対応します。」

また、マッサージが必要な選手もいます。日本のマッサージはすごく評判がいいんですよ。トレーナーさんにはボディランゲージや英語で伝わることありますが、選手によってはあまりハードにやられたくないなど微妙なニュアンスを伝えたい場合は、付き添うこともあります」

当日はホテルのロビーに集合し、スペシャルドリンクを受付してスタート地点に移動します。

「時間通りに来ない選手がいると心配です。まずは無事に集合し、スタートしてくれば」と竹澤さん。スタートとフィニッシュが同じ場所の場合はそのまま待機していますが、フィニッシュ地点が異なる場合はすぐにバスで移動し、フィニッシュ地点で待ち受けします。

フィニッシュ後からは大忙し。優勝者は

フラッシュインタビューがあり、その他の選手もミックスゾーンでの取材、記者会見、ドーピング検査、表彰などが続きます。選手が途中棄権した場合にも備える必要があります。

「回収車があり、出場人数も多くない場合は競技場で待っています。大会によってはどこでやめたかがわからず、フィニッシュ地点まで来ないでそのままホテルに直行することもあります。その場合、荷物はフィニッシュ地点に届いているので、コーチに持って帰ってもらうように連絡をします。コーチもホテルに戻ってしまった時には、我々が届けに行きます」

通訳のやりがい

竹澤さんに、通訳のやりがいについて聞いてみたところ、「競技とプライベートの距離感は考えますが、やはり優勝インタビューを担当することになれば、それはうれしいですね。」

ただ、ハプニングもあるそうです。「緊張もしますし、外だと声が聞こえにくい時があるので大変です。あるレースの記者会見で、選手と少し離れた場所から通訳をすることがあったのですが、それからはできるだけそばで訳させていただきますと伝えています。また、陸上競技の通訳をする場合、

『陸上の専門用語』が出てきますので、そういった知識を身につけました」。

マラソンだけでなく、トラック&フィールドの試合でも通訳は待機しています。フィールド競技種目では専門的な陸連の担当者が近くにいるので、その通訳として待機。トラック&フィールドの場合は選手の人数が多いので、担当を決めてもらえないそうです。

ちなみに、海外の通訳事情を聞いてみると、「海外の大会に行っても通訳がそれほどいないことが多いです。日本が特殊な例になるかもしれません。例えば欧米の場合は英語が話せればどこに行っても困らないのですが、日本はちょっと困るのではないかとということで、通例的に通訳が置かれているようです。『おもてなし』ということかもしれないですね。なんと、陸上の大会で通訳がいるのは世界的には珍しいことなんですね！

海外から参戦したアスリートが不安なく、ストレスなく現状打破するには、通訳の人たちは言葉を伝えるだけではなく、さまざまな気遣いと心配りが大切なんですね！選手との距離感を大切に、できるだけ選手に負担をかけずにレースに集中してほしいという竹澤さんのプロ意識、選手への思いやりが伝わってきますね！

JAAF大会 Info

第42回大阪国際女子マラソン大会
JMCシリーズII 第2期女子2戦!(G1)

<開催日>
1月29日(日) 12時15分スタート
<開催場所>
ヤンマースタジアム長居発着

大会ページ



<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1689/>

第106回日本陸上競技選手権大会・室内競技
2023日本室内陸上競技大阪大会

<開催日>
2月4日(土)・5日(日)
<開催場所>
大阪城ホール

大会ページ



<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1693/>

第71回別府大分毎日マラソン大会
JMCシリーズII 第2期男子4戦!(G1)

<開催日>
2月5日(日)12時スタート
<開催場所>
大分市営陸上競技場

大会ページ



<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1697/>

第61回延岡西日本マラソン大会

<開催日>
2月12日(日)8時35分スタート
<開催場所>
宮崎・延岡

大会ページ



<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1724/>

読者アンケート

回答いただいた方の中から抽選で5名様へ陸連グッズをプレゼント！
今後の掲載内容の参考にさせていただきたいと考えておりますので、是非下記アンケートへのご協力をお願いいたします。
<https://forms.gle/WA2E6FKdzCiXfGvt5>

